



体をほぐします



講師の八木澤さん



シバ神のポーズ

ヨガ教室は、9～11月の隔週木曜日に、女性サポートセンターの軽運動室で開催されました。講師は、国際ライセンス取得プロインストラクターの八木澤菜穂子さんが務めました。

この教室のヨガは、姿勢の矯正や、血行促進、ダイエットなど、美容と健康に効果があります。取材当日は12名の受講者が参加しました。ヒーリング音楽が流れる中、基本的なストレッチから応用的なポーズまで、リラックスした雰囲気の中で行いました。

広報紙でこの教室を知って受講した、吉澤さんと照井さん（ともに今市）に聞きました。

Q 教室の感想は？

A 先生の話が楽しく、細やかな

説明をしてくれるので良く分かります。体のどの部分に効いているのかが実感できました（吉澤さん）。

Q 今後の目標は？

A 先生はいつも「自分の事は自分で出来るように」と言っているの、いつまでも元気でそうあり続けたいです（吉澤さん）。

私も、ヨガを通していつまでも若々しくありたいです（照井さん）。

心身の健康を促進し、美容にも効果的なヨガ。年齢に関係なく、いつでもどこでも気軽に始められます。

外出しなくなりがちな冬でもできる趣味として、あなたもヨガを始めてみませんか。

⑨ ヨガ教室（清滝公民館）

参加者の声でつなぐ

公民館の教室・講座紹介

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL：50-1200
ホームページ <http://www.khmoan.jp/>

展覧会 日光学美術篇 壺
アイスホッケーの美・スポーツ美学の観点から
平成24年11月23日（金・祝）～12月24日（月・祝）
会期中入館無料！！

【特別企画】 美学講座2012(表篇) スポーツ写真を見る 物理的瞬間の記録と「動き」の感性的認識

おとしと昨年にご好評をいただいた美学に関する講座を、今年度は装いを変え、「表篇」と「裏篇」の2回シリーズで開催します。

第1回は「表篇」と称し、開催中の展覧会の内容に合わせた、スポーツと写真表現との関係についてです。

写真が「動き」をどのように表現してきたのか。また、私たちは写真から「動き」をどう感性的に認識してきたのか。写真表現における鮮明、不鮮明の差は何を意味するのか。写真から「スポーツ／動き」を見ることの多様性をとらえるべく、これらの問いに迫ってみたいと考えています。



内野博子氏

と き：12月16日（日） 午後2時～午後4時
講 師：内野博子氏（美学者）
場 所：美術館喫茶室カフェ アン・レーヴ
または、エントランスホール
参 加 料：500円（展示室観覧と飲み物付き）
定 員：20名（先着順）
参加方法：美術館へ電話で申し込む。

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

市民文芸

川 柳 選者 山本都留米

遠い道ふりむけ見れば茜色

嫌味言い妥協もせずに我を通し

濕原を散歩で語る放射能

深呼吸マスクの中の小宇宙

山坂を超えるも夫婦という輪廻

金木犀深呼吸して立ち止まる

家族の和愛も小技も嘘も入れ

俳 句 選者 伊藤清

山鳥の声のさ走る秋の声

天高し口より釘を吐く大工

ひとり聴く虫に癒しのリズムあり

薪積みて軒に陽の射す山の秋

揺れて香をかすかに残す花野風

蔦紅葉ペンションすでに店仕舞い

一年を待ちて零るる野菊かな

星野シズ

星野恒志

星陽子

白土武夫

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

星野シズ

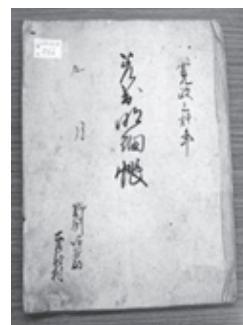
歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1（市図書館隣） ☎0286-217
開館時間 午前9時～午後6時（入館無料）
休館日 毎週月曜日、祝日



◆企画展紹介⑩「江戸時代の村をみてみよう」（その1）

江戸時代の日光市内には90以上の村がありました。多くの村は現在も大字や町内の名称として残っていますが、無くなってしまう村もあります。市内の村の大部分は日光神領と呼ばれる日光山現在（二社一寺）の領地でしたが、大名の領地である藩領や旗本領などもありました。各村には名主、年寄、百姓代という村役人がいて、領主との調整役を勤めていました。今回の企画展では、江戸時代の市内の村分布や村役人が領主へ提出した文書や絵図を紹介し、現在の町と比較しながら当時の人々の暮らしについて考えてみます。



寛政3 (1791) 年
土呂部村明細帳



文政6 (1823) 年
瀬尾村明細帳

●村明細帳

日光神領を支配する日光奉行所が、村の概要を把握するために提出させた帳簿です。村高（村の田畑の収穫高）や田畑の面積、年貢高、家数、人数、馬数や地理、気候、特産品など統一した項目が記載され、「村勢要覧」ともいえる資料です。市内では寛政改革が実施された寛政3（1791）年に初めて作製され、以降は必要に応じて作製が命じられ、村役人の連名により奉行所へ提出されました。

企画展開催期間：3月31日まで

◆催し◆

◆開館30周年記念コーナー開催中
資料館の歴史を振り返る展示。

短 歌 選者 阿久津伸一

支えなく気負いもせずに浮く雲は確かなる思い秘めて動かず

窓からの少しの風にも大ゆれのこよみ残り三枚となる

軒下に巣をかけ急ぐ蜘蛛二匹ふわりひらりにせまる夕暮れ

逝きし友とかつて歩みしすすき野は涼風立ちて蟋蟀の鳴く

内戦のシリアの家族の目に涙抱く幼子に笑む赤ん坊

荒れ狂う一夜明ければ清すがし木犀の香に気持安らぐ

畦に咲く真つ赤に燃ゆる曼珠沙華なぜか空しく黄昏を行く

作品を募集しています！

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記して、郵送またはFAX、メールでご応募ください（二重投稿は不可）。

なお、作品中の漢字には、ふりがなを明記してください。

応募先及びくわしくは

秘書広報課 広報広聴係

☎（21）5135・FAX（21）5109